



第一礼拝次第

メッセージ：田村治郎師

ブレイズリード：郭永東牧師

前奏	540	会衆
主の祈り		会衆
ブレイズ	「あなたは」 「私の望みは」	会衆
聖書朗読	マタイ 25:31-40 (新約聖書 p50)	司会
祈賛美	536	司会衆
メッセージ	「この最も小さき者たちの 一人ひとりと共に」	牧師
祈賛美	新生 378	牧師衆
献金祈禱		司会衆
報告		司会衆
頌栄	新生 672b	司会衆
祝		牧師



第二礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師

司会：郭永東牧師

聖書：列王記下 23:1-25 (旧約聖書 p619)

メッセージ：「契約を実行するヨシヤ王」

ブレイズ：「主の癒しを受けとろう」「慕い求めます」

賛美：新生 386 新生 134



ファミリー礼拝

司会：渡真利千佳子姉

聖書：詩編 24:1~10

メッセージ：「すべては主のもの」

<巻頭言>

「あなたの1食分を世界食料デー募金に！」 牧師 渡真利彦文

2004年、国際飢餓対策機構(FHI)の働きで、バングラディッシュと隣国インドのカルカッタを訪問した。もし二つの国の印象を問われるなら、人々の波と貧困の極みと言える。しかも長年にわたり、その現状は変わらないという。人間的側面から考えるなら、途方にくれてしまう。しかし、失望感の漂う中、子ども病院への援助、漁村に住む少女たちへの教育、貧困地域での学校など、神が働いておられることを垣間見ることができた。

国際飢餓対策機構では飢餓のない世界の実現のために、貧困家庭の子どもたちの未来のために、海外駐在スタッフを通して現地の人々への励まし協力、災害時の緊急援助の活動をしている。

毎年10月16日は国連が定めた世界食料デーである。私たちの教会では10月1日~31日の1か月間、飢餓や食料問題について考え解決に向けて一緒に祈り行動する月間となる。今、世界では、すべての人が食べられるだけの食料は生産されているのに、11人に1人が十分に食べられていない。

私たち日本は世界の食物が集まる国の一つである。しかし捨てられてしまう食べ物が多いと言われている。その実態は、まず作りすぎが原因で、保存しても、腐ったりして捨てざるを得ない。また買いすぎが原因で、賞味期限が過ぎていることに気づき、捨て、別のものを買ってしまうという悪循環が見られる。

私たちは地球大家族のために何ができるだろうか。